

2020  
教育改革  
どうなる?  
英語

News from Networks of Educational Alliance

# NEA通信

教育アライアンスネットワーク会報

extra  
edition

小学校での新学習指導要領の実施が、いよいよ来年に迫ってきました。小3・小4で外国語活動、小5・小6で教科として、小学校での英語教育が始まります。大きく変わる日本の英語教育について、最新トピックをお伝えします！

「楽しい」だけではダメ？  
小5・小6は成績が付く！

2020年4月から、小学校で新しい学習指導要領が全面实施されます。プログラミング教育の導入と並んで注目を集めているのが英語教育です。

これまで小5・小6で行っていた英語を楽しく体験する活動が、小3・小4に移行。年間35コマ、外国語活動として、身近な動物を英語で言ったり、英語の歌を歌ったりする活動が行われます。

小5・小6は英語が教科となり、教科書を使っての学習が始まります。年間70コマの学習が義務化され、週3コマほど授業が組まれる学校もありそうです。

小学校卒業時点で600～700の英単語を身につけることも学習指導要領に明記されているため、ペーパーテストが実施され、その点数を含めて通知表の成績が付けられることになるでしょう。

また「読む」「書く」に偏っていたこれまでの英語教育を見直し、小3・小4の段階から「聞く」「話す」の活動を重視し、これら4技能をバランスよく身につけることが目指されます。

小学校で身につけた英語力をもとに、2021年度から新学習指導要領が実施される中学校では、英語の授業はオールイングリッシュとなり、より対話的な学びが行われる予定です。

英語で自分の意見を言ったり、相手の英語を聞いて考えたり。コミュニケーション

シヨンスキルとしての「使える英語」の習得を目指して、今、学校の英語教育は大きな転換点を迎えているのです。

大学入試の英語も変わる！  
民間の資格・検定試験を活用

2021年1月から、これまでのセンター試験に代わって実施される「大学入学共通テスト」でも、英語の4技能を評価するため、「実用英語技能検定（英検）」や「GTEC（ジーテック）」などの民間の資格・検定試験を活用することになりました。「大学入学共通テスト」は

## 小学校 英語教育 実施スケジュール

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
学年	年少	年中	年長	小1	小2	小3
	年中	年長	小1	小2	小3	小4
	年長	小1	小2	小3	小4	小5
	小1	小2	小3	小4	小5	小6
	小2	小3	小4	小5	小6	中1
	小3	小4	小5	小6	中1	中2
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
	小5	小6	中1	中2	中3	高1
	小6	中1	中2	中3	高1	高2

小3・小4での  
外国語活動、  
小5・小6での  
教科としての英語が  
スタート！

新学習指導要領  
小学校(2019年まで)・  
中学校(2020年まで)  
移行措置

小3・小4：「外国語活動」として学習  
・英語の音声に慣れ親しむ  
小5・小6：「教科」として学習（成績がつく）  
・情報を「聞き取る」「読み取る」  
・身近な事柄について英語で「伝える」  
・相手に伝える目的を持って英文を「書く」  
学習単語：600～700語（小3～小6）

マーク式の問題で「聞く」「読む」力を測り、資格・検定試験のスコアを活用して4技能をチェックします。これに伴い、2021年1月の受験生は、2019年中に大学入試センターから個々に発行される共通IDを取得し、2020年12月までの間に数回の資格・検定試験を受検。そのうち成績のよい2回分のスコアを提出することになります。

英語に関しては、新しい大学入試はもうスタートしているといえるかもしれませんが、新しい試みですので、今後の動向を注視していくことが必要です。

※英語教育についての詳しい情報は、今後も『NEA通信』でお知らせしていきます。